

社団法人日本臨床工学技士会

『学術論文作成の手引き』

平成 21 年 5 月（第 2 版）

社団法人日本臨床工学技士会

JACET Academy

学術委員会

会誌編集委員会

前 文

本『学術論文作成の手引き』は下記の2つの章から構成されています。

第1章：『会誌投稿に関する内規』

第2章：『論文作成ガイドライン』

第1章は当会の学術誌である「会誌」への投稿に関する一般的な取り決めの内規であり、具体的な原稿作成は第2章『論文作成ガイドライン』に準拠することとして取り決めていきます。

今後、各位が論文作成等の機会において本『学術論文作成の手引き』をまず一読され、今後の学術研鑽過程の一環として寄与するように、常に傍らで“座右の銘”として活用して頂くことを期待します。

目 次

はじめに（学術担当理事）	-----	1
第1章 『会誌投稿に関する内規』	-----	2
第2章 『論文作成ガイドライン』	-----	3
おわりに（会誌編集委員長）	-----	13

はじめに

(社) 日本臨床工学技士会
学術担当理事 大石 義英

学術論文作成の手引き発行にあたり、(社) 日本臨床工学技士会学術委員会を代表して、本学術論文作成の手引き発行までの経緯を説明致します。

当会において、学術論文に関する規定は、毎年発行される会誌の巻末にある“会誌投稿”に関する内規だけでした。それに気付いたのは、学術委員会が中心になり平成 18 年度より募集を開始した「第 1 回 JACET AJINOMOTO Award」の論文の選考会の場でした。委員の中から論文の書き方が人によって違うとの指摘があり、規定を調べると上記のように『会誌投稿に関する内規』しかなかった訳です。

早速、学術委員会において各種学会や研究会の「ガイドライン」を参考にし、学術論文作成の手引き」の策定に取りかかり、そしてこの度ようやく出来上がりました。この「学術論文作成の手引き」に則り書いていけば論文が作成出来るよう工夫されています。

臨床工学技士にとって論文作成は学術活動の上で大切な要因です。特に新卒者や、勤務先に先生や先輩がいない施設に就職された方にとって、論文をどうやって書けば良いかわからないのが現状だと思います。また、論文を書くに従い、構成や単位および統計手法等、難しい問題が出てきます。その時に、この「学術論文作成の手引き」を参考にして頂ければ良いと思います。

会員各位が多くの論文を書かれ、当会や各種学会、研究会で発表され、臨床工学技士のレベルアップに繋がれば幸いです。各位のご活躍を祈念致します。

第1章 『会誌投稿に関する内規』

社団法人日本臨床工学技士会（以下「当会」という）は、「当会」が発刊する「会誌」への投稿に関し、以下のとおり定める。

1. 投稿の種類

「当会」が発刊する「会誌」への投稿の種類は、以下のとおりとする。

- 1) 日本臨床工学会の抄録集に掲載・発表されたものから、発表論文として論文集に掲載するために選択され、投稿するもの。
- 2) 日本臨床工学会の抄録集とは関係なく、投稿資格者の自由意志により投稿するもの、及び会誌編集委員会の企画により、投稿を依頼されたものが投稿するもの。

2. 投稿資格

論文の筆頭著者は原則として「当会」会員とする。

3. 原稿の作成

日本臨床工学技士会『学術論文作成の手引き』に準拠すること。

4. 論文の体裁

日本臨床工学技士会『学術論文作成の手引き』に準拠すること。

5. 著作権

会誌掲載されたすべての論文の著作権は、「当会」が保有するものとする。

6. 原稿の送付先

日本臨床工学技士会『学術論文作成の手引き』に記載の事務局宛、または事務局が指定する会誌の編集委託先に郵送されるものとする。なお、投稿論文は返却しない。

7. 校正

投稿されたものに対する校正は、編集委員会が査読し著者に依頼するが、著者校正は原則1回とする。

8. その他

論文の内容は臨床工学に関するもの、会員に対し有益な内容で他紙に発表されていないもの、あるいは投稿中でないものに限るものとするが、その「会誌」への掲載の可否は会誌編集委員会にて審議・決定するものとする。

附則

1. この内規は平成16年11月13日から施行する。
2. この内規は平成19年4月7日に一部改訂し、同日から施行する。

第2章 『論文作成ガイドライン』

日本臨床工学技士会への論文投稿にあたり、論文の体裁、論文の構成、受け付ける論文の種類、論文を書くときの正しい漢字および仮名書きにする語、単位記号の記載例を示します。このガイドラインを参考に又、『会誌投稿に関する内規』に準拠した論文をご投稿ください。

1. 論文の体裁

1) 原稿の書き方

日本臨床工学技士会への論文投稿原稿は必ずワードプロセッサを使用してください。投稿は印刷した原稿のほか、デジタル原稿も提出してください。提出するファイルの形式はマイクロソフト（以下、MS）ワード形式を推奨します。

原稿用紙のページ設定は横書き A4 で一行 35 文字×35 行とし行間を十分あけてください。文中のフォントは編集時の文字化けなどを防止するため日本語は MS 明朝体、アルファベットは Century を使用してください。読点はカンマ「,」、句点はピリオド「.」を使用してください。頁番号を各頁下部に記載してください。

2) 図表の書き方

図表は A4 用紙に一点ずつ描くか貼り付けてください。図表の大きさは掲載を希望する大きさに描くのが原則です。ただし、編集時に体裁に合うように拡大・縮小することがあります。写真は図として扱います。

図はパワーポイントやイラストレーターなどの絵画用ソフトを使用して書くことを推奨しますが、手書きでも受け付けます。ただし、図中の文字の手書きは避けてください。図中のフォントは、原則として写真製版しますので使った文字がそのまま印刷されます。日本語は MS ゴシック、アルファベットは Arial など見やすい文字を使用してください。図の表題は図の下に図番号とともに記入します。

表は、MS エクセルやワードなどで作成することを推奨します。表内に使用するフォントは原則として日本語は MS 明朝体、アルファベットは Century を使用してください。表の表題は図の上に表番号とともに記入します。

2. 原稿作成

1) 論文の種類（4. 臨床工学技士会で受け付ける医工学論文の種類参照）

投稿する論文の種類を記載します。

- ・原著論文（学術委員会の審査によって掲載されます）
- ・総説（解説の依頼原稿など）
- ・研究報告、症例報告、発表論文（大会での発表内容の投稿）
- ・その他

2) 表題

サブタイトルには前後にハイフンをつけます。

原著論文では英文のタイトルも記載します。

例 低温状態での...血流の検討 ー流体三次元映像化装置の...おける応用ー

3) 著者名

著者の所属が異なる場合には右肩に数字をつけて区別できるように記載します。

原著論文では英文での著者名も記載します。

例 鈴木一郎, 山田次郎, 青木三郎¹⁾, 三井四郎²⁾

4) 著者の所属

著者の所属が異なる場合には右肩に数字をつけて区別できるように記載します。

(ワードの「書式」の「フォント」の「文字飾り」で上付きにします)

原著論文では英文での所属も記載します。

例 日本臨床病院 臨床工学部, 日本 CE クリニック 透析センター¹⁾, 日本臨床病院
腎臓内科²⁾

5) 筆頭著者の所属機関連絡先

郵便番号 所在地

施設名 所属

電話番号 Fax 番号

E メールアドレス

例 〒113-0033 東京都文京区本郷 3-4-3

日本臨床工学病院 臨床工学部

TEL: 03-5805-2515 FAX:03-5805-2516

Mail : office@jacet.or.jp

原著論文では英文での所属機関連絡先も記載します。

以上 1) ~5) を第 1 頁に記載して下さい。

6) 要旨

原著論文では 600 文字以内の和文要旨と 200 語以内の英文要旨

その他の論文では 400 文字以内の和文要旨

7) 索引用語

6 語以内 各語和文 10 文字以内、アルファベット 20 文字以内

以上 6), 7) を第 2 頁に記載してください。

8) 本文

「5. 論文の構成」を参考に本文を記述してください。

文献の引用は本文の引用箇所の右肩に出現順に通し番号を付けてください。番号はワードの「書式」の「フォント」の「文字飾り」で上付きにします。

例 ...山田ら⁵⁾の研究では... ...との報告^{7,11)}もあるが... ...は数種¹²⁻¹⁵⁾の結果が...

9) 項目の番号の表示方法

項目の番号は次の順序で用いる。ただし、項目が少ない場合はアラビア数字の記号から始めてもよい。

(注：() のない記号は本文と混同しないように点「.」を付すか1字分のスペースをあける)

I. II.

1. 2.

1) 2)

(1) (2)

① ②

A. B.

a. b.

●本文の例

1. 目的

回路内部での血栓形成の原因として...

2. 実験対象と方法

1) 対象

本実験の対象は...の A 群 (表 1) ...

2) 方法

(1)実験回路

実験回路 (図 1) は..

①実験機材.

(2)検討方法

得られた数値を t-検定で...

3. 結果

実験の結果を表 3 に示す...統計学的に有意な差が認められた.

4. 考察

我々の実験結果は山田ら⁵⁾の実験結果と異なるが、これは...と考えられる.

5. 結論

1) ...のため検証実験を行った.

2) その結果...であった.

3) この...は正しいと考えられる.

10) 文献

本文で引用した文献に番号をつけ箇条書きで記述します。

雑誌の場合

1) 著者名 (全員) : 論文名. 雑誌名 巻 (号) : 頁 (初頁一終頁), 西暦発行年
書籍の場合

2) 著者名 (全員) : 論文名. 書籍名 (編者名) : 頁 (初頁一終頁), 出版社, 西暦発行年

ホームページの場合

3) <http://www.jacet.or.jp/contents/gakkai/jyoho.html>

11) 図表の表題原稿

本文に使用した図表の表題を簡条書きにします。図表に説明書きが必要な場合にはここに記述します。

図番号 : 表題「説明」

表番号 : 表題「説明」

例 図 1 : 実験回路「血液は貯血槽からポンプで実験対象に導き, …を経てから再び貯血槽に戻る」

図 2 : 実験設備全景

図 3 : 実験結果 (血流測定) ...

表 1 : 実験対象

表 2 : 低温での各部の血流量...

12) 図原稿

図は MS パワーポイントや MS エクセル、アドビイラストレーターなどで作成してください。手書きでもよいですが、図中の文字は手書きを避けてください。

発表スライドをそのまま印刷することはできる限り避けてください。カラー印刷はできませんので、グラフなどはグレースケールで区別できるように配慮して作成ください。図の下部に図の表題を書き込んでください。

13) 表原稿

表は MS ワードなどで下記の例のように Tab“タブ”と点線のみで簡単に書いたものでかまいません。発表スライドをそのまま印刷することはできる限り避けてください。表の上部に表の表題を書き込んでください。

例 表 6 : 温度による血流速の実験結果

対象“タブ”低温時血流速“タブ”高温時血流速“タブ” (mL/min)

A群“タブ” 25.6 “タブ” 26.6

B群“タブ” 25.8 “タブ” 33.2

3. 投稿方法

下記の要領で印刷原稿とデジタル原稿の双方を作成し提出してください。

1) 印刷原稿

投稿は図表を含む原稿（原著論文では原稿のほかに著者名、所属、連絡先を記載していない原稿のコピー2部、計3部）を印刷して提出してください。

2) デジタル原稿

フロッピーディスク（FD）か書き込み型コンパクトディスク（CD-R）の記録メディアも同時に提出してください。送付する記録メディアには論文タイトルと筆頭著者名を明記してください。原則として原稿、記録メディアは返却しません。

原稿（テキスト部分）はワードプロセッサの原稿ファイル（MSワード形式）を“筆頭著者”名+“論文”のファイル名（例 山田太郎論文）を付けて記録メディアに保存してください。同一年に複数の論文を日本臨床工学技士会に提出する場合には、論文が区別できるようにファイル名の最後に番号（例 山田太郎論文2）を付けてください。

図は作成したソフトでJPEG形式、GIF形式、PDF形式のいずれかに変換してください。手書きの場合もスキャナーなどで同様の形式に変換してください。“図”+相当する番号（例 図2）のファイル名で同一記録メディアに保存してください。

表をMSワードやMSエクセルで作成した場合は、このファイルも提出願います。表は“表原稿”のファイル名で同一記録メディアに保存してください。それ以外の方法で表を作成した場合にはスキャナーなどでJPEG形式、GIF形式、PDF形式とし、“表”+相当する番号（例 表6）のファイル名で同一記録メディアに保存してください。

3) 提出前のチェック

下記のチェックリストに従い、確認の上、送付してください。

- 第1頁には論文の種類、題名、著者名、所属、連絡先が明記されていますか？
- 第2頁には要旨が400文字（原著は600文字）以内で記載されていますか？
- キーワードは規程どおり明記されていますか？
- 本文は1. 1) (1) ①の見出しで記述されていますか？
- 文献は規定の表記方法で簡条書きされていますか？
- 原稿には頁数が打たれていますか？
- 図表表題原稿はありますか？
- 原稿のコピーが2部ありますか？
- 原稿は左上部に大型のステッplerや綴じひもなどでまとめられていますか？
- デジタル原稿はワード形式で著者名のファイル名で保存してありますか？
- 図表もデジタル化して指定のファイル形式で保存されていますか？
- デジタル原稿の記録メディアに論文表題と筆頭著者名が記されていますか？

4) 送付

原稿（原著は原稿のほかにコピー2部）と記録メディアを送付記録の残る書留郵便あるいは宅配便で下記、または事務局が指定する会誌編集委託先にお送りください。

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-4-3 ヒルズ 884・お茶の水ビル 4F
(社) 日本臨床工学技士会 事務局 学術委員会宛
TEL : 03-5805-2515

4. 臨床工学技士会で受け付ける医工学論文の種類

1) 原著論文 (original)

自身の研究成果をまとめたものが原著論文です。何らかの新知見を含むことが必要です。(社)日本臨床工学技士会で最も権威のある論文です。原著論文として投稿された場合には、臨床工学技士会学術委員会で審査して掲載を決定します。

2) 総説 (review)

ある研究課題についての歴史的展望と現在の動向を紹介するものが総説です。多くの参考文献を添えるのが特徴です。

3) 研究報告、症例報告、発表論文等 (report)

珍しい臨床経験や新しい医療機器の使用経験、研究のまとめなどの報告です。日本臨床工学会の発表内容のまとめなども論文として受け付けます。

5. 論文の構成

実験的研究論文では、各章の標題として、通常下記の用語が用いられます。

以下に各標題の内容について説明します。総説は論旨が明確であれば、4) から 8) の項目については、これにとらわれずに構成されていてもかまいません。

1) 論文題名 (title)

題名だけで内容がほぼ想像できて簡潔なものが理想です。題名に副題 (subtitle) を付けることはなるべく避けたほうが良いとされていますが、副題を付けることにより、論文全体の内容を示す場合もあるので、絶対に不必要とは言えません。

2) 要旨 (synopsis)

実験やシステムの開発、新しい技術、理論などを本文とはまったく独立のものとして書きます。ここには議論や解釈、文献の参照や図表は使わずに、論文の中心課題と本文の要点を手短かに書いた文章でまとめます。要旨と抄録は同意語として用いられています。

3) 索引用語 (key words)

本文の内容に関係のある単語を数個列記します。単語は題名に含まれていなくて、論文の要素として重要なものがよいとされています。

4) 緒言 (introduction)

研究の目的や目標 (新しい理論や原理の論究、原理の応用、装置やシステムの開発、改良など)、問題の定義、論文で取り扱う範囲、論文の背景、歴史的概観、関連研究などを述べます。研究史を含ませることがあり、研究方法が新しく開発したものであれば詳しく説明します。緒言の代わりに『まえがき』、『はじめに』を使用することもあります。ただし、これに対応して『まとめ』『おわりに』を用います。

5) 研究材料と方法 (materials and methods)

研究計画、研究の状態や条件、研究対象、対象を選ぶ方法、介入方法、すべての観察項目の明示、データ評価の統計的処理法について詳しく記載します。

6) 研究結果 (results)

客観的データで、文としては過去形で書き、本文のほかに図や表を含みます。

7) 考察 (discussion)

他人の成績 (文献) と比較しながら、自分の成績の意味を説明し、自分の考えを主観的記述で現在形で書きます。

8) 結論 (conclusion)

実験成績と考察のまとめを主としますが、実験方法に少し触れる場合もあります。しばしば箇条書きにされます。総括的なことを述べ、序論で提起した問題に本論でどのように答えたかをまとめるとともに、理論や結果の正当性、有意性 (利点だけでなく欠点も含む)、他の研究との違い、応用性、今後の課題などを述べます。『結論』は、独自の理論や原理を扱った論文に用いることが多く、『まとめ、おわりに』は、解説的、一般的あるいは実用的な論文などで、考察の結果を一言で表現できる場合や、緒言で何か疑問を提起し、それに対して yes no で結ぶときに使われています。

9) 文献 (references , literature)

論文に関係し、本文中で引用したものを書きます。文献は全編を通じて出てきた人名とその論文の出所を記録します。

6. 漢字および仮名書きにする語について

論文を書くに当たり、一般的に仮名書きする語、なるべく仮名書きする語、原則として漢字を使用する語、および正しい送り仮名を表にまとめてみました。論文を執筆される際の参考にしてください。

1) 漢字を用いてはいけない例

宛も	あたかも	如く	ごとく	只	ただ
或る	ある	之	これ	唯	ただ
如何なる	いかなる	毎に	ごとに	忽ち	たちまち
何れ	いずれ	併し	しかし	兎に角	とにかく
所謂	いわゆる	而し	しかし	丈	だけ
於て	おいて	頗る	すこぶる	誰	だれ
凡そ	およそ	即ち	すなわち	乃至	ないし
及び	および	総て	すべて	尚	なお
却て	かえって	折角	せっかく	何処	なぜ
斯く	かく	其の	その	成る可く	なるべく
此	ここ	それ等	それら	の外	のほか
茲に	ここに	為に	ために	諮る	はかる

筈	はず
殆ど	ほとんど
略	ほぼ
先ず	まず
迄	まで
寧ろ	むしろ

勿論	もちろん
尤も	もつとも
以て	もって
矢張り	やはり
稍	やや
由って	よって

判る	わかる
吾	わが
僅かに	わずかに
亙り	わたり

2) なるべく仮名書きする語

且つ	かつ
が在る	がある
が無い	がない
殊に	ことに
する事	すること
する時	するとき
する程	するほど

その位	そのくらい
それ故	それゆえ
但し	ただし
就いて	ついて
出来る	できる
で良い	でよい
と言う	という

と共に	とともに
又は	または
全く	まったく
若しくは	もしくは
の通り	のとおり
の処	のところ
の様に	のように

3) 原則として漢字を使用する語

あかるく	明るく
いたって	至って
いっさい	一切
おおいに	大いに
おそらく	恐らく
およぼす	及ぼす
かならず	必ず
かれ	彼
かろうじて	辛うじて
きたす	来たす
きたる	来る
きわめて	極めて
がいして	概して
ぐうぜん	偶然

げんに	現に
さらに	更に
さる	去る
すこし	少し
すでに	既に
じつに	実に
そのさい	その際
たいてい	大抵
たえず	絶えず
たがいに	互いに
たとえば	例えば
ついで	次いで
つぎに	次に
つとめて	努めて

つねに	常に
とくに	特に
とつぜん	突然
なに	何
ならびに	並びに
のばあい	の場合
はじめて	初めて
はたして	果たして
ふたたび	再び
もつとも	最も
もっぱら	専ら
わがくに	我が国
わたくし	私
われわれ	我々

“最も”は最上級を表す時は漢字で、“ただし”の意味で使う時は仮名書きにします。“並びに”、“又は”などの接続詞を漢字の直後に使うと、漢字の続きとして読まれる心配があるので、漢字直後の場合だけ仮名書きにします。

4) 正しい送り仮名

明らかに	あきらかに
鮮やか	あぎやか
味わう	あじわう
暖かい	あたたかい

新しい	あたらしい
侮る	あなどる
危ない	あぶない
誤る	あやまる

謝る	あやまる
表す	あらわす
著す	あらわす
現れる	あらわれる

著しい	いちじるしい	偏る	かたよる	冷たい	つめたい
偽る	いつわる	必ず	かならず	貫く	つらぬく
承る	うけたまわる	汚い	きたない	滞る	とどこおる
失う	うしなう	異なる	ことなる	伴う	ともなう
促す	うながす	断る	ことわる	懐かしい	なつかしい
占う	うらなう	盛んに	さかんに	働く	はたらく
潤す	うるおす	従う	したがう	翻す	ひるがえす
補う	おぎなう	少ない	すくない	短い	みじかい
行う	おこなう	速やかに	すみやかに	難しい	むずかしい
幼い	おさない	損う	そこなう	群がる	むらがる
恐ろしい	おそろしい	平らに	たいらに	珍しい	めずらしい
陥る	おちいる	確かめる	たしかめる	専ら	もっぱら
顧みる	かえりみる	賜る	たまわる	軟らか	やわらか
輝く	かがやく	慎む	つつしむ	煩う	わずらう

7. 臨床工学技士会で使用している単位記号

1) 長さ

キロメートル	km
メートル	m
センチメートル	cm
ミリメートル	mm
ミクロン (10 ⁻⁶ m)	μ
オングストローム (10 ⁻¹⁰ m)	Å

2) 面積・体積

平方メートル	m ²
平方センチメートル	cm ²
立方メートル	m ³
立方センチメートル	cm ³

3) 容積

キロリットル	kL
リットル	L
デシリットル	dL
ミリリットル	mL
マイクロリットル	μL

4) 質量

トン	t
キログラム	kg

グラム	g
ミリグラム	mg
マイクログラム	μg

5) 圧力

平方センチ当たりキログラム	kg/cm ²
平方センチ当たりの重量	gw/cm ²
水銀柱メートル	mHg
水銀柱ミリメートル	mmHg
水柱ミリメートル	mmH ₂ O
パスカル	Pa
ヘクトパスカル	hPa
メガパスカル	MPa

6) 速さ

毎時キロメートル	km/h
毎秒センチメートル	cm/sec
1分間回転数	rpm

7) 率

パーセント	%
パーミル	‰
パーデシミル	‱

8) 時間

年	yr
月	mon
日	day
時	hr
分	min
秒	sec
ミリ秒	msec

9) 度数

度 (角度)	°
分 (角度)	'
秒 (角度)	"

10) 温度

摂氏	°C
華氏	°F
絶対温度	°K

11) 熱量

カロリー	cal
キロカロリー	kcal
ジュール	J

12) 濃度

モル	mol
----	-----

ミリモル	mmol
ミリエキュバレント	mEq
規定	N
100 万分の 1	ppm

13) 光度

カンデラ	cd
------	----

14) 電流

アンペア	A
ミリアンペア	mA
マイクロアンペア	μ A

15) 周波数

ヘルツ	Hz
キロヘルツ	kHz
メガヘルツ	MHz

16) 電力

ワット	W
キロワット	kW

17) 電気

クーロン	C
ボルト	V
オーム	Ω
ファラッド	F

8. SI 接頭語

接頭語	記号	倍数
エクサ	E	10^{18}
ペタ	P	10^{15}
テラ	T	10^{12}
ギガ	G	10^9
メガ	M	10^6
キロ	k	10^3
ヘクト	h	10^2
デカ	da	10^1

デシ	d	10^{-1}
センチ	c	10^{-2}
ミリ	m	10^{-3}
マイクロ	μ	10^{-6}
ナノ	n	10^{-9}
ピコ	p	10^{-12}
フェムト	f	10^{-15}
アト	a	10^{-18}

おわりに

(社) 日本臨床工学技士会
会誌編集委員長 小田正美

私たちの取得している臨床工学技士の国家資格は、臨床現場において工学的な知識を持った人が生命維持管理装置の操作と保守点検を行うことができる非常に幅広い分野であります。このような立場にいる私たちが、日常行っている業務の中に医療の質の向上、医療機器の安全性の向上にかかわることが多くあります。たとえば新医療機器、新材料の使用にかかわる注意や取り扱い方、トラブル事例など、また院内での保守点検方法や医療機器管理の実際など、このような貴重な経験等から得た事例や研究を私たち臨床工学技士のみならず多くの医療従事者に発信できる手段の一つとしても会誌があると考えます。

しかしながらこれには一定のレベルをクリアした、洗練された文章である必要があります。そのためにはある決められた規定に従い書かれた論文でなくてはならないはずです。今まで簡単な“会誌投稿”に関する内規があったのみであります。今回、“会誌投稿”に関する内規と学術委員会が作成した論文作成ガイドラインを一つの冊子にまとめ、学術論文作成の手引きを発刊することになりました。

すべての臨床工学技士が、机の片隅に置き論文を書かれるときの参考として利用されることをせつに願っています。

『学術論文作成の手引き』

平成 19 年 4 月 1 日 初版発行

平成 20 年 1 月 31 日 初版改訂発行

平成 21 年 5 月 11 日 第 2 版発行

発 行 社団法人 日本臨床工学技士会

〒 113-0033 東京都文京区本郷 3-4-3

ヒルズ 884 ・お茶の水ビル 4F

TEL.03-5805-2515 FAX.03-5805-2516

制作・印刷 NPC 日本印刷株式会社

〒 101-0021 東京都千代田区外神田 6-3-3

TEL.03-3833-6971 FAX.03-3833-6883
